

平成28年度 堺市障害者自立支援協議会 第5回 障害当事者部会
議事概要

日時	平成28年11月30日(水) 14:00~16:00
場所	堺市総合福祉会館 5階 第3研修室B
出席者 (敬称略)	丸野、白石、北村、茅原、辻本、帛田、奈佐、松本、石橋、 前田、増田
欠席者 (敬称略)	川淵、三田
事務局	【堺市障害施策推進課】桐山、杉本
事務局補助	【総合相談情報センター】桜井、上田、小出

● 当事者交流会の振り返り

グループ1

【委員から】

- ヘルパーについて、使っている人と、いない人両方いる。それぞれの思いが有る。時間は足りないと思っている人、満足な人両方いる。
- ヘルパーとの関係性は、ヘルパーとの相性、人柄で差が出てくる。言いにくいことでも我慢するのではなく、気持ちとかやって欲しい事をきちんと伝える事が大事。発達障害の知識とか理解とかがあまり高くない。当事者との関わりの中で学んでほしい。交流会の場がもっとあった方が良い。
- ヘルパーが人材不足。人がいない切羽詰った状況。ヘルパーが病気になったり怪我した場合、調整に困る。今後、法案が通って、外国人のヘルパーがこれから入ってくるという話があるが、それも使っていくのも一つの手。
- 精神障害の方は、その日の状況で気分が波が有って、ヘルパーを当日キャンセルしてしまう事もある。わがままと受け取られがちだが、もっと障害を理解する事が大きい。
- 身体障害は、加齢や色々な原因で障害がより重度化してヘルパーの仕事量が増える。対応をヘルパーと一緒に相談しながら考えて進めていくしかない。
- 防災について、いつ起こるかわからないから予測して支度しておくとか考える限界があるから大変。旅行中に地震が起こった時、どこに逃げたらいいのか、無理して戻って来るべきなのか、その場にとどまっているべきなのか難しい。避難所はどこにあるのか、障害者が使える所はどこにあるのか、道が壊れて車椅子が使い物にならないとか、結局マンパワーに頼るしかない。
- 避難所については、どこの避難所に行けばいいのか。伝えたい人にどう伝えるのか。部屋のノブに札をかけておく方法もある。地域の民生委員や知人に、ここに障害者、要支援者が住んでいることを分かって貰っておく事が大事。堺市で避難行動要支援者リストを地域ごとに作ってる。
- 薬がいる人、どうしたらいいのか。食糧とかは届くけど日用品後回しになる。

【委員から】

- 初めて参加。一人で考えてもなかなか思いつかない事、色々な人の意見を聴くと、自

分もやってみようというのもあった。障害があるからこそ普段から地域、ご近所との付き合い、自分の出来る事で関わっていく事がとても大事だとわかった。参考になった。

グループ2

【事務局補助から】

- ・資料をもとに報告。

【委員から】

- ・何回かどうですかって聞くことによって、やっと話してくれた。良い事は話してくれたが、悪い事はなかなか言ってくれなかった。もう少し時間が欲しい。話を聞き出すのに時間がある。
- ・避難訓練の時、外線ボタンを押してからでない和外に繋がらないのに、焦っていたから、「119」だけ押しちゃって、館内の内線に繋がった。

【委員から】

- ・ヘルパー制度について、双極化している。他方はすごく助かっていて、希望は叶っている。反対側は役に立っていない、もっと何かしてほしいと不満がある。
- ・当事者にとって一番良いヘルプを考えることは、防災にも繋がって来る事。困っているのは目に見えてわかるが、一般の方はどう接していいのかわからない。精神障害、知的障害、発達障害の見えない障害の方がいる中で、災害が起こった場合を予測しながら、避難訓練も地域に輪を広げてほしい。自治会に会費を払わないと情報が貰えないこと自体がおかしな話で、本来、行政が障害者に配慮し当事者視点に立った時に、ある程度地域との関わりに重点を置きながら前面に立って欲しい。
- ・ヘルパー、避難所、防災についても、もっともっとやることあるし、すぐに対策を立ててほしい。市協議会に交流会の意見を報告して施策反映にしていただけなら、交流会の参加者も増え、当事者部会の士気も上がる。交流会の意義は大きい。

【委員から】

- ・ヘルパーについて、満足している人も居るが、私は朝から夜の8時位までヘルパーさんが居てくれないと困るという状況の中で、ヘルパーさんが突然休まれたり、何かがあった時に、代替りのヘルパーさんがいない。ヘルパー不足。
- ・グループホームにいる方とこれから入居したい方の会話があり、勇気づけていたのがとても良かった。
- ・防災については、車椅子の人は避難してもそこにきちんとした車椅子で使えるトイレが有るとか、具体的に考えて頂いていない事がとても不安。色んな人に知って貰う為に何か活動しないといけない。この交流会を通して痛切に感じた。

グループ3

【委員から】

- ・資料をもとに報告。
- ・ヘルパーについて、24時間365日ヘルパーを利用したいという身体障害の方もおられた。今の支給量では足りないという方がおられた。
- ・プライベートを見られるデメリットもあるが、ヘルパーによって物を置いてある場所

を知って貰っている事で、入院した時とか必要なものを持って来て貰えるという利便性が有る。

- ・防災については、いつどこで起こるか分からない、いつ起こってもおかしくない、準備しておかないといけない状況。訓練の上でも経験が大事。

【委員から】

- ・防災と聞いた時に、僕たちは一番初めに忘れられるのかなと思っている。死ぬしかない。生きていたら、命が有ればその場所にとどまるのではなく、他府県に行く道筋を自分で作っておけばいいのかな。避難所行ってもバリアフリーではないし、分かって貰える様なネットワークも出来ていない。水道が無いとトイレ、風呂困ることが沢山ある。
- ・政令指定都市の堺市がどこまで整っているのか考えた時に、「無いのでは…」というのが正直な印象。熊本の災害の時に聞いたが、障害者の人が災害を受けた時、ネットワークは全然ない。避難所が1個できたが、行政やボランティアが動けるという事はなく、自分たちで自分たちの生活を守る為だけに動いていた。ボランティアの人たちが集まってきて、どうにかこうにか避難所で障害者の人達が生活できたのが2週間後位。堺市で障害のある人たちに対するマニュアル作りがどこまで出来ているのか知りたい。
- ・ヘルパーとのコミュニケーションは、まだ3ヶ月位しかヘルパーの支援をして貰っていないが、お願いしてから直ぐに来てもらえない。直ぐに来て貰えるような事業所が少ない。「1ヶ月前には言ってください」というような使い勝手が悪い。

グループ4

【委員から】

- ・両親が「ヘルパーを使いたくない」と言う。「どうしたら納得してもらえるか」という意見があった。
- ・防災は、近所との付き合いが無い場合は、どうしたらいいのか。回覧板とか無いから、きっかけが無い。民生委員も知らない。近所の人と話したことが無いから、いざとなったらどうしたらいいか。実際に起こったらパニックになるかな。

【委員から】

- ・ヘルパーについては、淡白で使ってない人が多かった。
- ・防災については、他人事のような方もいた。今回の交流会が皆で情報を共有する会になったかな。
- ・聴覚の障害がある人が、熊本県に支援に行った話をしてくれた。障害があっても避難所とか防災の場で役に立てる事が有るのかを考えるのも面白い。
- ・ヘルパーについて知らなかった人が、ヘルパーについて知るとか、防災について興味のなかった人に興味を持ってもらおう、そういう会になった感じ。

【事務局から】

- ・アンケートの集計（資料P11）報告。

【委員から】

- ・大体良かったという意見だった。次回は、違うテーマでやりたいと思っています。

● 石川県白山市の視察対応の報告

【事務局から】

- ・三田会長宛てに白山市から「堺市に行って良かった」、「当事者部会のメンバーが積極的にお話すること自体が衝撃的でした」という連絡があったそうです。後日、感想などあれば、お伝えしたいと思います。

● ブログについて

【委員から】

- ・当事者交流会と石川県白山市の視察対応の記事を更新した。

● 新任委員の発表

- ・新任委員から体験談等の発表。

● その他

- ・今後の予定について
- ・1月25日（水）障害当事者部会（愛知県安城市から視察予定）

【事務局から】

- ・12月の予定が決まっていないため、決めて欲しい。
- ・1月25日は部会終了後に新年会を予定しているため、部会の開始時間と安城市との交流会の時間どうするか決めてほしい。

【委員から】

- ・12月の内容は、「フリートーク（委員同士で聞きたいこと）、ブログのあり方」とする。
- ・新年会は午後5時30分から開始のため、部会を午後3時～5時までとする。部会の時間内で安城市との交流会を30分程度行なう。その他の内容については、次回の部会で決める。

● 次回 障害当事者部会

12月28日（水）14：00～16：00 堺市総合福祉会館 5階 第2研修室